

沈黙に向き合う

沖縄戦聞き取り47年

(94)

石原 昌家

2005年8月5日、大し(写真参照)のもと、大阪から訪れた団体「からだ」と「いのち」の出会いの会通称「からだ」の会、松井洋子代表のメンバーに向けて、沖縄国際大学で講演した。その翌日、那覇空港からその代表が電話をかけてきた。「先生が話されていたことが新聞で報道されている」と、やや興奮した。その翌日、那覇空港からその代表が電話をかけてきた。その翌日、那覇空港からその代表が電話をかけてきた。

歴史修正主義の台頭②

この提訴には、予兆と懸念の動きがあった。沖縄が

大江・岩波裁判に発展

「軍命なかつた」全国展開へ

早速、新聞記事を見つけた。大江氏と岩波を擁護する。『歴史修正主義』の守備隊長(大尉)だった故赤松嘉次さんの弟秀一さん(「と座間味の指揮官」誤記述)と座間味の指揮官「誤記述」が1945年3月下旬、米

非道な人物と認識される」と主張している。

大江健三郎さんは「訴状が届いておらず、詳しいことが分からない」、岩波

日米によって抑圧されている座間味島に一度聞き取り調査に出掛けただけだったの

沖縄住民を称賛する。『歴史修正主義』の守備隊長(大尉)だった故赤松嘉次さんの弟秀一さん(「と座間味の指揮官」誤記述)と座間味の指揮官「誤記述」が1945年3月下旬、米

2017年9月7日にスタートした本連載は、まず第2回(同年9月8日)から第4回(同年10月17日)まで「赤松来島事件」に

それから25年たった2005年8月、大江・岩波沖縄戦裁判の原告のひとり、大尉)だった故赤松嘉次さんの弟秀一さん(「と座間味の指揮官」誤記述)が1945年3月下旬、米

慶良間の集団自決 軍命なかつた

大江氏と岩波を提訴

「歴史修正主義」と「誤記述で名誉棄損」
座間味島の歴史をめぐって、大江健三郎と岩波茂雄の提訴。『歴史修正主義』の守備隊長(大尉)だった故赤松嘉次さんの弟秀一さん(「と座間味の指揮官」誤記述)と座間味の指揮官「誤記述」が1945年3月下旬、米

顧客預金解約し100万詐取

浦波書店と作家の大江健三郎さんが提訴されたことを報じる2005年8月6日付の琉球新報

碑前に集合、全員立降す。住民の「集団自決」に軍命はなかつた」ということを全国展開するはずだと話し合った。私が見て話した事柄が、沖縄滞在中に新聞記事になっていたので、びっくりして電話してきたのである。

因縁

しかし、この新聞記事だけでは、単なる名誉棄損による訴えとしか、読者には受け止めようがない。しかし、この訴えこそ、軍拡推進論者、大東亜戦争肯定論者ら歴史修正主義グループの並々ならぬ決意のものと日本政府の「戦争ができる国」への道を切り開いていく動きだった。

「と座間味の指揮官」誤記述)と座間味の指揮官「誤記述」が1945年3月下旬、米

「と座間味の指揮官」誤記述)と座間味の指揮官「誤記述」が1945年3月下旬、米

「と座間味の指揮官」誤記述)と座間味の指揮官「誤記述」が1945年3月下旬、米

「と座間味の指揮官」誤記述)と座間味の指揮官「誤記述」が1945年3月下旬、米